



自然が
笑顔
いっぱい
いっぱい

西部公民館に入ると、子どもたちの楽しい笑い声が聞こえてきます。内浦学童保育所は毎日笑顔がいっぱいです。

「現在十七名の児童が通っています。自然がいっぱいのなかで育った子どもたちは、のびのびとして元気で明るく、やさしい子どもたちです。私も子どもたちと一緒に遊ばせてもらっています」と安部指導員はいつていました。

- 3月定例会……2ページ
- 一般質問……5ページ
- 特別委員会……10ページ
- 常任委員会……11ページ
- 議会ひろば……12ページ



人と自然の
やさしいハーモニー

3月定例会

平成15年第1回定例会が、3月5日から26日まで22日間の会期で開催されました。

この3月定例会では、15年度当初予算をはじめ、エンゼルプラン推進協議会、個人情報保護条例制定審議会、男女共同参画審議会の設置に伴う関係条例の整備など議案26件と、発議1件、請願1件、陳情3件について審議し、全議案と請願については可決、採択されました。発議と全陳情は否決、不採択となりました。

新年度予算の主な内容として、情報プラザ人の駅の工事費用、西鉄バス路線の一部廃止に伴う交通路の確保、海老津町営住宅の建設費など、新たなまちづくりに向けた施策が行なわれます。

明日に生かす

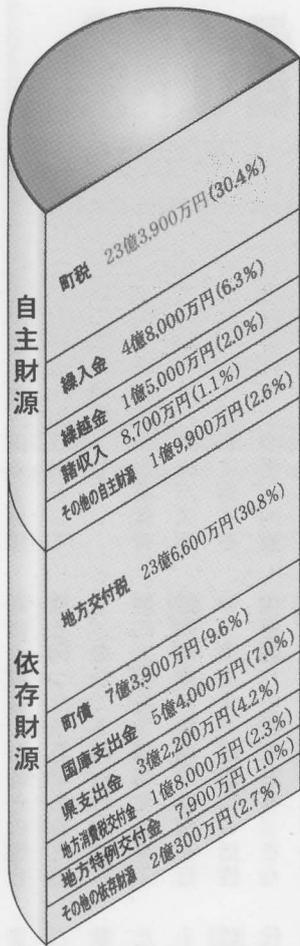
総額 一七二億円

新年度予算の審査は議会の重要な役割の一つです。

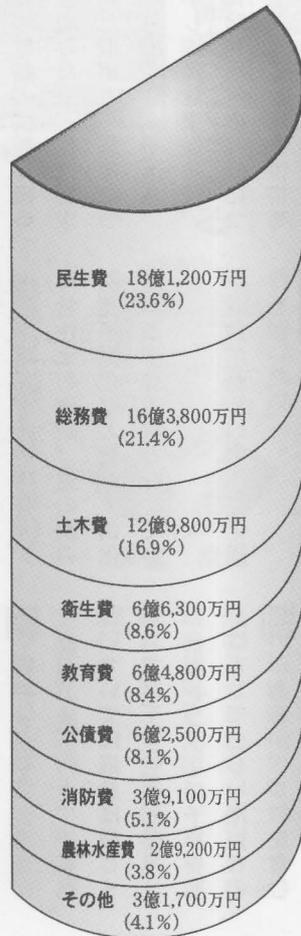
三月定例会では、平成15年度一般会計のほか五特別会計及び水道事業会計について、本会議で説明を受け、連合審査会で詳細にわたって審議しました。

一般会計の総額は七六億八千四百万円で、前年度と比較すると一・三パーセントの減となっています。五特別会計及び水道事業会計の合計は九五億七千三百万円となっています。

<一般会計>



歳入



歳出

平成15年度会計別当初予算

会計名		本年度予算額	前年度予算額	比較増減
一般会計		76億8,400万円	77億8,500万円	△1億100万円
特別会計	国民健康保険事業	26億5,500万円	23億6,600万円	2億8,900万円
	老人保健事業	37億2,200万円	39億5,300万円	△2億3,100万円
	住宅新築資金等貸付事業	400万円	400万円	0
	公共下水道事業	18億1,500万円	14億5,800万円	3億5,700万円
	農業及び漁業集落排水事業	5億7,900万円	4億8,500万円	9,400万円
水道事業会計		7億9,800万円	7億2,700万円	7,100万円
合計		172億5,700万円	167億7,800万円	4億9,900万円

15年度一般会計予算 賛成・反対討論 最終日（本会議）

間の財政調整、財政を保障するという仕組みからして当然の国の措置である。

歳出では海老津学童保育施設の建替え、路線バス運行委託、商工業者に対する制度融資の町の姿勢、内浦小学校のコンピュータ教室、岡垣町個人情報保護条例の取組みなど、住民要求に応えた取組み、施策については評価するものである。

しかし国民健康保険税、介護保険利用料の軽減について予算化、生保者世帯等への越盆・越年見舞金の大幅減額と廃止の方向、学校給食の民間委託など経済的、社会的弱者、子どもたちに光をあてるという地方自治体本来の観点の欠落を指摘しないわけにはいかない。以上のことから一般会計予算について賛成することはできない。

賛成

政治の混迷と、経済不況が続く中、税収不足、交付税の減額など地方を取巻く環境は厳しい。そんな中、提案者は苦心の予算編成を行ったと思う。第4次総合

計画と町長の公約との整合性を図った予算であると思う。なかでも岡垣町の表玄関に（仮称）情報センター計画は周囲の環境整備を行い、商工会、商店街の活性化を願うものである。さらにこども未来館の建設、海老津学童保育所の建替え、町営住宅の建設、道の駅の関連予算化など数多く消化される予算編成となつている。

反対

財源の厳しい中、完全遂行を願いたい。

全ての予算について反対するものではない。評価するところ、納得するところも多くある。例えば住居表示については多くの方から喜ばれている。職員の苦勞を察するところである。また学童保育所の建替えは保護者から喜ばれている。海老津・白谷線の改良工事も継続して地元の利便性と働く場所も予算化されている。しかしながら、ロゴマーク、イメージソングについて昨年議論してきたが、岡垣音頭があるではないか、い

まさらイメージソングではという声も出てきている。歌声も聞こえていない。また（仮称）駅前情報センターについて、世間では箱物は造る必要がない、造る時代ではないと言われている。高齢者の多い岡垣に必要なものかと思う。

財源の厳しい中、予算執行については議員は厳しくチェックする必要がある。情報センターの予算を取りはずしてもらいたいとの思いがあるが、これを含む一括予算であるために反対するものである。

賛成

大変苦勞されて予算編成されたことについては評価する。しかし、団地内の車の離合問題についての予算が少ない。補正予算なりで対応してもらいたい。また、

花火大会について議会の半分はやめてもいいとの考えを持っている。町も考えてほしい。敬老祝い金について、町は考えると言っているが、具体的な答弁はない。前向きに考えてもらいたい。以

上のことを要望して賛成とする。

賛成

予算編成については大変苦勞されたと思う。私は箱物についてはあまり好まないが、第4次総合計画を展望しながら、今後の岡垣町がどうあるべきかというところで町長は一つ一つ住民の

目線で財源を出していくということについて、私は大変感心している。

西鉄バスの一部廃止についても、通勤・通学者に対する町のあたたかい思いやりがあり、大変評価している。まだまだ評価するところはあがるが、以上のことを含めて賛成とする。



議員十人が登壇



引き続き運行が決定し、利用客もひと安心

問 バス路線の一部廃止について

答 引き続き運行

問 戸切区内の安全対策について

問 下戸切区の戸切橋から、

JRガード下までの間の車の離合について、過去三回一般質問をしたが、その後の進捗状況はどのようなになっているのか。

答 折尾警察署との協議の結果、道路利用者が広範囲なため同意を得ることが難しい、断念をせざるを得ない。



下川路 勲

問 この間の道路管理者はどこのか、町なのか、県なのか。

答 町が管理している。

問 町の管理であれば難しいことではないと思うか。

答 折尾署と協議したと言っているが、いつ協議したのか。

問 過去3回相談に行った。

答 私の知る限りでは、折尾署と協議したと聞いていないが、協議された月日を教えてください。

問 月日は明確に記憶していない。

問 次に戸切百合野地区の一部未歩道箇所は、その後どのようなになったのか。

答 早期実現に向けて県に働きかけている。

問 町からの働きかけはなかったと聞いているが一体どうなっているのか。

答 実現に向けて県に働きかけている。

問 バス路線の一部廃止について

問 「糠塚〜いこいの里線」の廃止はあらゆる面で損失が大きいがどのように考えているのか。

答 空白期間を置かず、4月から引き続き運行するように事務を進めている。

問 収益悪化が原因で廃止と昨年から言われているが、尻に火が点かないと動かないのか。

答 公共交通体系整備計画を策定する中で、行政と住民の皆さんを含めたところで、当町の交通体系が今後同あるべきか検討していく。

問 ぼた山の利用を

答 有効活用を促進

海老津駅南の開発について

問 JR海老津駅南側地区は本町における将来の財源確保と総合的な「まちづくり」の観点からは是非とも開発促進を図る必要があるが第4次総合計画の重点課題として位置づけしている。

答 都市計画マスタープランに位置づけられている森林活用ゾーンのアクセス道路

計画の実施については県道岡垣・宗像線のJR横断改良整備の完了が平成18年度末を予定されており、アクセス道路については、遠賀町との接道を考えて県道とするか、戸切地区との連絡をする道路として計画するかは、今後の検討課題であり、関係機関と調整を行っていききたい。

問 宝地区と上海老津地区に接道する仮称町道海老津・白谷線は、特開事業で取り組んでいる。特開事業終了時期が現在分らないが、今年5〜6月に検討委員会の報告が予定されており、事業途中での終了となった場合は、地方道整備事業での実施可能との県の考えを

確認している。

問 戸切百合野ポタ山の有効利用について

答 安定化工事後のポタ山を負の資産でなく、文化的・能動的に元氣の出る有効資産としての活用推進はできないか。

問 新エネルギー開発機構は、ポタ山をいつまでも所有及び使用を目的としておらず、いずれ処分するということを確認している。現在、町にはポタ山を利用する計画はない。しかし、民間事業者などの動向の把握

に努め、地域のイメージアップや活性化に繋がる環境にやさしい施設の用地として、幹旋や取得の依頼があり、適地として判断された場合は、民間業者へ幹旋したり、開発公社による先行取得及び転売などによって、ポタ山の有効活用を促進したい。

ぼた山安定化工事、どのような有効利用ができるのか

問 クリーン岡垣の実現

答 町民の協力が必要



クリーン岡垣の実現には住民の協力が必要

問 国民は政治に関わる不正な金品の授受、職務に關して不公平な取り扱いをもっともいみ嫌う。町長はクリーン岡垣の実現を掲げ就任されたが、どのような認識か。

答 町政を進めるにあたり「常に町民の目線からみた行政に取り組む」ことに心

を砕いている。

情報公開条例や政治倫理条例を制定し、信頼回復に向けた取り組みで、確実にクリーン岡垣実現に前進している。

問 町長自身がクリーンであるだけでは信頼は得られない。

ない。行政機構、行政行為がクリーンであるとみられなければならない。

情報センター建設で誤った情報が先行し、地権者の名誉が損なわれた。

答 地権者は行政の協力者である。町報で事実の経過を町民に報告する。法的な処置は別途考える。

問 岡垣町の意思決定については、その段階が公正であることが必要である。

問 地方公務員法は、職員は法令・条例・規則・規程に従い、上司の職務上の命

令に忠実に従わなければならないと規定している。

答 学校給食の民間委託推進は意思決定である。全職員がその方向で務めている。町政推進には町民の協力が必要である。審議会、協議会の委員などいろいろなポストをお願いし、協力を求めている。



木原 信次



安部 正開



ぼた山安定化工事、どのような有効利用ができるのか

問 「道の駅」の整備は

答 17年度整備予定



「道の駅」の建設予定地（吉木什王堂）



竹井 和明

問 「道の駅」について

「道の駅」は平成12年から長期にわたって遅れているが、この間、行政はどのような対応をしてきたのか。

本町の「道の駅」整備計画は、特色を持った魅力ある「道の駅」にすべきである。

議会が先進地等の視察をし、報告した内容はどのように活かされているのか。

道の駅に関する貴重な意見として充分に参考にさせていたただいている。

道の駅の建設はどこに決めたのか。

吉木什王堂に建設したいと考えている。

県内二百四十ヶ所の直売所「道の駅」は収益が下がりつつあるが、遅くはないのか。

15年4月に中間報告として取りまとめたいただき、

17年度に整備したい。福祉施策について

恵の家の定員、入所者、待機者はどれくらいか。

定員百名で、百名が入所されている。待機者は九八名おられる。これからは施設数、定員数の確保など関係機関に見直しを働きかけていく。

特別養護老人ホームの枠はどのように設定するのか。

平成12年から16年にかけて高齢者福祉計画等により、県内でどれくらい造れ

ばいいのか目標量を作成する。財政状態について

経常収支比率の推進見込みについて尋ねる。

今の状態が続けば14年度は八十パーセントを超えると予測される。

融資枠の拡大について、どう考えるか。

限度枠については難しい。他町を参考にして、手数料の支払等も含めて検討した。

問 漁業の活性化を

答 具体的な発案を検討

行政改革、学校給食について

第二次行政改革で水道事業において業者委託したことにより、現業職員六名が一般職へ職務変更された。しかし、職員定数の変更はなく、業者に委託した分だけ財政における支出は増えた。これは行革といえるのか。また職員定数の削減はなぜしなかったのか。

水道事業については業者委託した分、経費の軽減となる。また多様化する住民ニーズ、少子高齢化、高度情報化、そして行政課題は山積みしている中で、経常経費増につながる職員の増員は難しく、行政サービスを下下させずに民間委託等を図り行政運営を進めていく。



市津 広海

問 第三次行政改革で小・中学校給食調理員の一部委託の予定であり、民間委託し経常経費軽減分、中学校の給食を実施することのことだが、職員定数はかわらず民間委託と中学校給食導入経費が増になる。小学校給食民間委託化により、

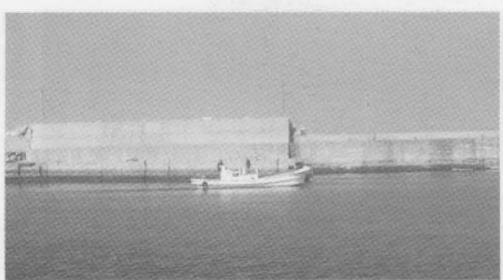
四名が一般職に変更される予定である。また退職補充による、新規採用者が一名予定されているが、第二次・第三次の行革で十名の職員が増員されることになり、真の行政改革としては疑問に思う。

地域に輝き、漁業に活性化を

漁業振興基本計画書の中で、今後獲る漁業から、資源管理型漁業いわゆる根付漁業が示されたことは、

当初予算で漁場資源調査費を計上し、その結果に基づき、今後の具体的な計画を策定する中で、町も当然

然かかわっていく。漁協・漁業者が生き残りかけた漁業政策として評価している。この計画を推進していくにあたり、波津の漁協・漁業者の熱意を持った取組みが基本であるが、その方向に導くことも行政の役割と思う。今後の取組みについての見解は。



活気ある漁業を取りもどしたい

環境行政の方向は

答 進行中である

環境行政について

問 京都議定書採択後の自治体の役割、計画等をどのような方向で実施しているのか。

答 をこまめに切るなど、ライフスタイルの見直しを行う。クリーンエネルギーの導入の可能性についても検討しており、すでに販売されているハイブリットカーやハイブリット街路灯などの議論を進めている。また、15年4月から始めるISO14001認定取得を秋をめ

答 平成14年3月に環境ビジョンを策定し、住民・事業者・行政がそれぞれできる役割を担いながら、例えば電灯やテレビのスイッチ

をこまめに切るなど、ライフスタイルの見直しを行う。クリーンエネルギーの導入の可能性についても検討しており、すでに販売されているハイブリットカーやハイブリット街路灯などの議論を進めている。また、15年4月から始めるISO14001認定取得を秋をめ

答 平成14年3月に環境ビジョンを策定し、住民・事業者・行政がそれぞれできる役割を担いながら、例えば電灯やテレビのスイッチ

をこまめに切るなど、ライフスタイルの見直しを行う。クリーンエネルギーの導入の可能性についても検討しており、すでに販売されているハイブリットカーやハイブリット街路灯などの議論を進めている。また、15年4月から始めるISO14001認定取得を秋をめ



竹内 和男

どにすすめている。さらには、三里松原などの緑化運動も引きつづき進めていく。

問 里山保全条例を制定し、ある程度里山を整備し、住民が憩える場所を提供する考えはないのか。

答 里山の環境問題については、今後の課題であるので、先進地等の研究をしていきたい。

答 交通行政について

問 道路運送法の改正に伴い、我が町のバス路線の内二路線が廃止されようとしている。4月より代行運行を余儀なくされている。各公共交通機関との協議会の設置を求めるが、町長の見解はどうか。

答 当町としては、平成15年実施予定の「公共交通体

系整備計画」を策定する中で、基礎資料の収集や調査等を行い、計画書を作り上げる中で、必要性に応じて事業者と協議を行いたい。

問 バス会社だけではなく、JR、タクシー会社、利用者、行政などでの協議会とすべきで、さらなる利便性向上に取り組むべきだがどうか。

答 その必要性は認めているので、バス会社だけではなくJR、タクシー会社等

竹の有効活用を

答 町おこしの一つとして研究する

問 国保税の軽減について

答 国保税は高すぎて担税能力の限界にある。町長の考えは。

問 高いとは思っていない。大変な町長の認識の誤まりだ。高いから払えない状況である。世帯数は五七四世帯、その多くが貧困、営業不振、疾病などで苦しんでいる。滞納すると保険証がもらえないが、その世

帯数は。15年2月末現在で四四世帯、三カ月の短期保険証は六十世帯。

問 保険証をもらえない世帯は年々増加し、年度当初で二九九世帯であった。借金をして納めたり、町の納税相談の上やつと保険証をもらっている。中には保険証がもらえないので病院にも行けず、その結果、病状

が悪化して救急車で運ばれ入院された。その後保険証が交付されたが、とき遅く死亡された事例もある。

問 どうしても医師にかかる必要があるが、国保税が払えない場合は、人命にかかわるので短期保険証を交付している。

問 一般会計からの繰出しを増やして、国保税の軽減をすべきではないのか。

答 近い将来に国保税の改定が避けて通れないのでその時に検討する。

問 竹の活用に取り組んでいるところがあるのか。

答 内浦炭焼きの会が取り組んでいる。

問 炭焼きの会の会長は「どにかしないといけない。うにかしないといけない。



平山 弘

町の自然環境保護、町おこしについて

問 竹林の現状は。

答 民間の竹林の面積は二五四ヘクタールあるが、竹に覆われる山が多くなって枯らしてしまうので、伐採か薬液の注入で除去するしかない。

問 竹の活用に取り組んでいるところがあるのか。

答 内浦炭焼きの会が取り組んでいる。

問 炭焼きの会の会長は「どにかしないといけない。うにかしないといけない。

そう思っているのは自分たちだけではない」と言われている。町が率先して農協、農家、各生産組合、環境団体にも呼びかけ取り組んでほしい。

答 個人の山のことはあるが、町全体としての大きな問題なので、農林水産課と打ち合わせながら考えていきたい。

問 竹炭、竹酢液など有効活用については。

答 町おこしの観点からは「道の駅」のこともあるので研究させていたきたい。

一つ一つの山が竹林となってしまう



一つ一つの山が竹林となってしまう



いつもいっぱいリサイクルボックス

問

より良い学校給食は
民間委託で問題ないのか

答 民間委託でも問題ない

問 教育の一環である学校給食の今日的意義から、調理員を含めた積極的な連携・協力をどのように考えているか。

答 子供たちの食生活を取り巻く社会環境は著しく変化しており、生活習慣病は児童・生徒にも広まり、社会



久保田秀昭

問 食に関する指導の充実のための取組みと指導体制の整備が求められている。調理員が栄養士と相談しながら手作りにこだわったり、

父母や地域に対しての試食会など学校内外で食生活改善に取り組んでいる。この

取組みも大切と考えるがどうか。

答 専門である学校栄養士との連携を中心としながら、学校長、教師、栄養士が一体となって指導の充実を図る。民間委託しても問題ない。

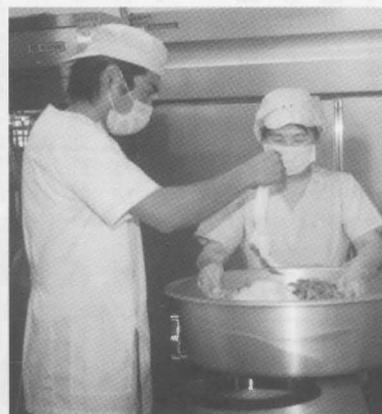
問 視察したときに次の質問をしたか。健康教育として取組みが民間委託で変化したか。すべての教職員の積極的な連携と協力が必要だが、この視点から質問を

したか。

答 尋ねていない。

問 「民間委託しても問題ない」と教育長は答弁したが、その事について十分な

調査をしていないではないか。これで問題がないという答弁は無責任だ。民間委託の白紙撤回を求める。



「おいしい給食」いつもありがとう

問 駅周辺の環境整備を

答 JR九州と協力して進める



駅周辺の環境整備が待たれる海老津駅



大堂 園治

問 協働の町づくりについて

本認識についてどのように考えているのか。

答 行政と住民、NPOなどの各種団体の目的が異なる主体が、それぞれの特性を生かして共通の目的に向かって協力することである。

問 「協働」の町づくりを進めるためには、住民の行政参加権を保障し、重要施策の立案、実行、評価を共同で行うシステムを築くことが重要だと認識するが。

答 成熟した行政のあり方として、私もそうありたいと思っている。

問 前提条件として、行政が保有している情報を住民に開示し、行政は事業評価制度や住民の責務を明確にした町づくり条例を制定することが必要だと思うがど

うか。

うか。

答 今後とも十分に検討していきたい。

問 重要課題を決定する手段として、全国的に住民投票が行われているが、町長はどのように考えているのか。

答 全国的な動きについては認識している。研究して、今後の課題としていきたい。

問 駅周辺の環境整備について

快速電車が一部停車し、町民から喜ばれているが、全本停車のためには、さら

に駐車能力の向上、駅周辺の交通安全対策、防犯対策、バリアフリー化などを推進していく施策の実行が必要だと考えているが。

答 JR九州と協力しながら進めていきたい。

問 16年度から実施を検討している仮称コミュニティバスの運行路線として、駅への乗り入れは検討されるのか。

答 検討されると思う。

商業の活性化を

当委員会は、平成11年6月に設置され、岡垣町の顔ともいえるべき海老津駅前地区を再生し、にぎわいを取り戻すための調査・研究に専念してきました。そして町執行部と共に、中心市街地活性化のための基本計画を平成10年2月7日に策定し、この

中心市街地

たび地元ならびに関係者のご協力を得て、情報プラザ人の駅の建設着工にたどり着くことができた。また、3月25日には岡垣町商工会が作成した中小小売業高度化事業構想が町より認定された。今後は町と商工会が連携しながら中心市街地における商業活性化の取組みが進められることになる。町民の皆さんのご協力をお願いしたい。

グループホーム（痴呆対応型共同生活介護）とは

痴呆のある方を対象とし、小集団での生活を通じて、利用者一人一人が現在維持している機能をできるだけ生かし、日常生活が送られることを目的とした介護サービスです。

- 特徴
- ①自立支援 家庭的な雰囲気の中かで、普通の生活をする。自分たちの食事は自分でつくる。能力に応じて無理のない範囲でできることをする。
 - ②小規模のケア 痴呆の方は、新しく出会った方を覚えることが難しい。また大勢のなかでは基本的な人間関係を結ぶことが難しい。1単位9人が合理的だと言われています。
 - ③個性性の尊重 グループホームは、広いリビングルームがあり、その周りをお年寄りたちの部屋が囲んでいます。部屋は個室になっています。これは痴呆の方の問題に対する実用的なメリットが大きい。

問 高齢者に生きがいを

答 さらに研究努力する

一般質問の前に、平和なくして福祉の充実はない。イラク戦争は悲惨だ。犠牲になるのは戦争に関係のない子どもや女性、お年寄りなどの民間人だ。戦争の即時中止を求める。

福祉の充実について

グループホームについて尋ねる。全国的に高齢者の一人暮らしや二人暮らしが増えている。当町においても高陽団地内等には、空家も多い。その空家を高齢者の生きがいの場として利用できる支援事業はないのか。



竹井 信正

答 高齢化率は二十二パーセントを超え、約八割の方が元気に過ごされている。その人たちは住み慣れた地域での生活を望まれている。そうした中で、独居高齢者の不安解消に向けた施策として、第二期老人保健福祉計画で、高齢者の健康づくりや、生きがいづくり事業等に取り組んでいく。町内三ヶ所の在宅介護支援センターは24時間体制で相談を受け、ケア体制によって高齢者が地域で安心して自立した生活を続けていく支援事業である。グループホーム

ムなどの入所で、介護する家族などの負担軽減がされる。問 高齢者の生きがいとしてグループホームの支援はできないのか。答 グループホーム問題や高陽団地内等の再生を目指し、これからも研究していく。要望 高齢者は年金カット、介護保険料の値上げ、医療改革でも厳しいものがある。是非、グループホームについて、前向きに検討



「道の駅」の早期実現

2年間「道の駅」を核とした地域の活性化と、観光開発の実現に向かって調査・研究を行

観光開発

った。各関係団体との懇談会、九州全域ならびに四国の「道の駅」の先進地行政視察を行った。全般的な所感として、地域の活性化は住む人々が協力し合い、地域の資源を活用することが成功のカギとなっている。また、他所の支援をあてにしないで、共通の価値観で協働することによってそれぞれの力を発揮することが大切である。



「道の駅」には新鮮な野菜や果物が並んでいる

報告

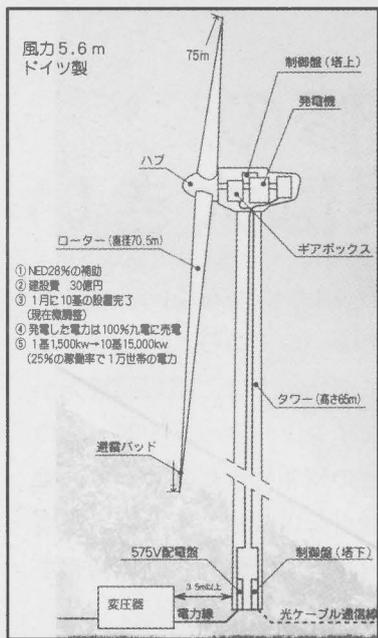
視察をいたしました

総務

自然のエネルギーは無量大

総務常任委員会の閉会中の継続調査として、北九州の皇后崎工場（スーパークミ発電システム）と新日本製鉄響灘風力発電所を視察研修を行った。皇后崎工場の一日のゴミ処理能力は八百十トンで、岡垣町の戸切にある遠賀・中間ごみ焼却場の廃止後（平成19年以降）の受入先としての施設である。この工場は近代的な施設で、焼却熱を活用し発電を行っている。一日約八十七万kWの発電能力があり、九電に売電されている。全国的に注目をされている施設である。一方、若松区の響灘に建設されている風力発電施設は、民間企業が新規事業の一環として新設しており、その能力は一機千五百kWで十機設置してある。年間約三千五百万kW（約一万年世帯の年間電気消費量）の供給があり、高さ六十五メートル、ローター（羽）の長さ七十五メートルで、西日本最大級の風力発電所である。

以上、二施設とも日本が今後目指していくエネルギー転換の先進工場である。岡垣町でもエネルギー施策が進められている中、今回の研修は大変有意義であった。岡垣町のエネルギー対策の参考にしていきたい。



新エネルギー開発として注目

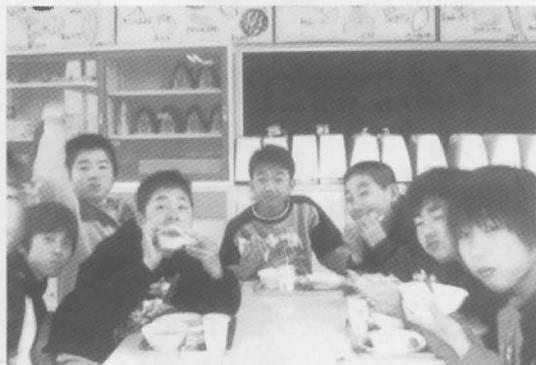
委員会 調査・調査

文教 安全でおいしい給食を

学校給食の民間委託化は、大変重要な問題の一つである。文教厚生常任委員会の中でも長期にわたり審議されてきた。この件については、第三次行政改革の答申により、学校給食調理業務民間委託化及び中学校完全給食導入を行うもので、数年前から教育委員会で調査・研究が行われ、小・中学校7校で保護者説明会が2回開催され、取組み方針について理解が求められた。当委員会でも、説明会の経過報告、保護者の反応、理解

状況などの報告を求めたり、保護者の生の声を聞くために説明会場にも出席した。また、この件について提出された陳情書の審議の中でも提出者に出席してもらい意見を聞き、慎重に調査・審議を行った。以上のことから当委員会では行革の答申を尊重することに決定した。

教育委員会は学校給食の本来の目的・方針を遵守し、「安全で質の高い」岡垣町の学校給食でありつづけるために最大の努力をするよう、当委員会としては強く要請している。



食べざかり・育ちざかり

経済 おいしい水は岡垣町の誇り

現在進行中の農業集落排水事業の進捗状況と海老津地区の宅地開発に伴う水道配水池の完成状況を視察研修した。内浦地区での排水工事は、当初の供給開始に向かつて順調に進んでいる。また、海老津区に建設されている水道配水池は、現在稼動している金比羅配水池の老朽化に伴う建替えである。

新配水池は3号線バイパス岡垣トンネルの北九州方面からの入口の手前の高台にそびえ、配水池からの景観は壮大である。また、夜のライトアップは美しく、町外に岡垣町を知らせるための最高の演出である。岡垣の観光の名所としても大いに利用できる場所である。安全でおいしい水の供給は岡垣町の誇りであり、これ

からも給水人口に対応できる地下水源を確保し、今後もおいしい水を供給していくよう務める。



内浦区の農業集落排水事業の視察

視察研修の 成果は大きい

議会閉会中の継続調査事項の取組みの中で、行政視察研修もその一つである。

視察先の選定にあたっては、視察候補先からの資料提供や、インターネット・県・その他関係団体等からの情報提供に基づいて、委員会で協議・検討を行い決定している。視察後は委員会で報告を行い、関係各課に情報を提供している。

表彰

おめでとございます



勢屋康一議員

福岡県町村議会議員表彰及び
福岡県町村議会議員表彰
〈勢屋康一議員〉
福岡県町村議会議員長会表彰



大森忠勝前議長

全国町村議会議員長会表彰
及び福岡県町村議会議員長会
表彰が、15年2月27日県自
治会館で行われ、岡垣町議
会から二名の方が表彰され
ました。

※受賞内容

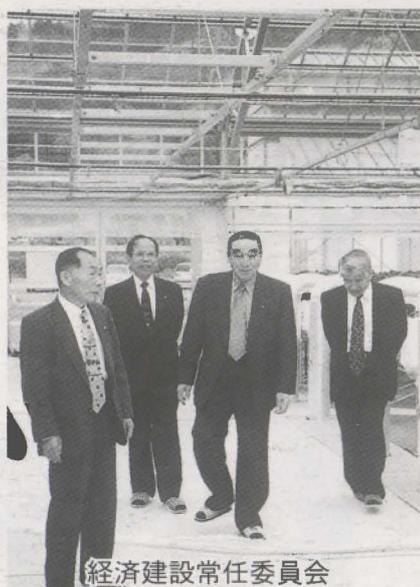
〈大森忠勝前議長〉

全国町村議会議員表彰及び

福岡県町村議会議員長会表彰

〈勢屋康一議員〉

福岡県町村議会議員長会表彰



経済建設常任委員会

イチゴ栽培 愛媛県広見町



文教厚生常任委員会

保育所の公設民営方式 京都市



総務常任委員会

風力発電 鹿児島県長島町

訂正とおわび

議会だより46号

(15年1月25日発行)で

① 岡垣町教育委員会の任命
について

柴田孝子さんとなつてい
るところ、柴山孝子さん
の誤りでした。

② 道路財源の確保に関する
意見書

全員賛成可決となつてい
るところ、賛成多数可決
の誤りでした。

以上訂正し、お詫び申し上
げます。

編集後記

全国的な傾向として、重要行政課題を決める手段として住民投票が行われている。日本の政治システムは議会制民主主義を執っており、直接民主主義と言われこの制度は議会の権威を損なうなどの理由で議論的になっている。

しかし、住民のニーズが多様で高度化していくなかで、より積極的に行政参加を促す手段として、その傾向は取り入れられるべきものだと思う。長寿化社会が進む中で、住民と行政が情報を共有し、「協働の町づくり」のために、政治に感心を持ち、住民自治の本旨を推進していくことは、今後とも重要な課題となってくる。しかし、自治が住民の責務を求めていることは必然であると思う。

〈大堂 園治〉

前議会広報委員会

委員 長 下川路 勲
委員 勢屋 康一
委員 大堂 園治
委員 矢島 隆一
委員 山田 隆一